

ユキワ精工、脱炭素社会へ向けて 生産現場も地球環境も改善

ユキワ精工(新潟県小千谷市、酒巻弘和社長)は3月1日、脱炭素社会に向けたプロジェクト「Go Green Challenge(ゴー・グリーン・チャレンジ)」を始めた。同社のツールホルダー「グリーンG1チャック」を1本販売するごとに、緑化事業へ100円を寄付する。酒巻社長は「生産現場の省資源や省エネルギーに貢献しながら、地球環境の改善も目指す」と語る。

緑を増やす

ユキワ精工のゴー・グリーン・チャレンジでは、同社のグリーンG1チャックの販売量に応じて、国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付をする。酒巻社長は「グリーンG1チャックは工具の長寿命化を実現するエコな製品。このプロジェクトを通じて、生産現場と地球環境の改善を同時に進められれば」と語る。

国際的に脱炭素社会へ向けた動きは強まっており、製造業でも環境対応の重要性は高まっている。同社は国際標準化機構(ISO)が定める、継続的な環境改善のための活動に関する規格

「ISO14001」を取得しており、製品の開発や製造などで積極的に環境管理に取り組んできた。

新たに開始したゴー・グリーン・チャレンジは、より直接的な地球環境の改善を目指す。緑の募金への寄付金は植林や森林整備などに使われるため、二酸化炭素の削減につながる。酒巻社長は「グリーンG1チャックの拡販とともに地球の緑化も進める、脱炭素社会へ向けたチャレンジ」と語る。

地球温暖化が解決されるまで

生産現場で省資源や省エネルギーを実現することも目的の一つ。グリーンG1チャックは高い振れ精度を誇り、工具の振動を抑え



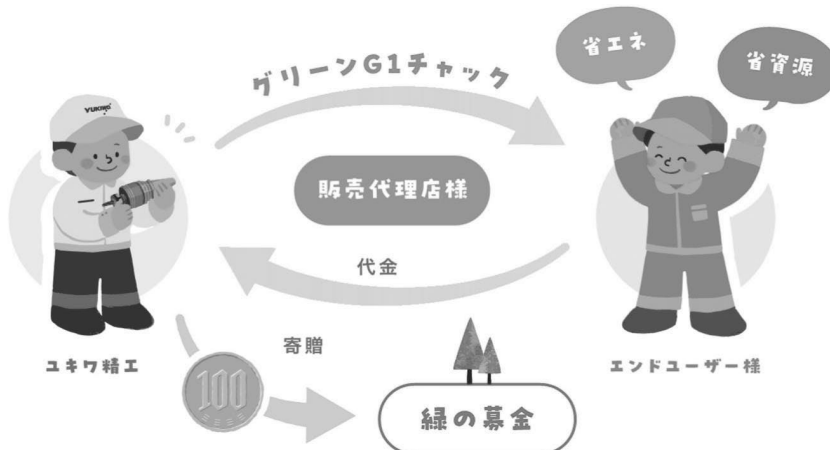
ツールホルダー「グリーンG1チャック」を右側に配置したロゴ

る構造を採用する。そのため一つの工具で加工できるワークの数が増え、工具費を削減できる。加えてびびりを抑制できるためワークの品質も高められ、製品不良を減らせる。

同製品を採用すると、サイクルタイムを短縮できる点もメリットという。酒巻社長は「剛性や把持力に優れるため、工作機械の送り速度などを抑えていた加工現場で、機械の性能を最大限発揮できるようになる」と説明する。サイクルタイムが短くなれば、工場の消費電力を削減できる。

ユーザーからグリーンG1チャックを導入して省資源や省エネルギーになったとの声は多く、環境性能の高さのさらなるアピールも狙う。酒巻社長は「地球温暖化が解決される日までゴー・グリーン・チャレンジを続け、地球環境の改善に貢献していきたい」と意気込む。

(水野敦志)



「ゴー・グリーン・チャレンジ」の概要図(写真は全て提供)